

# 送水管路 平面図1

(道道幕別帯広芽室線) S=1:500



## 特記事項

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。
3. 既設送水管(企業団)・既設水道管(幕別町)・既設給水管(幕別町)の位置及び埋設深さは想定のため、既設管との交差・接続時には試掘調査等を行い位置及び埋設深さを確認すること。
4. 管路掘削は、標準断面として表したものであり、掘削線の制限を示すものではない。掘削地山状況に応じて作業の安全を確保出来る掘削幅・掘削勾配として施工を行うこと。
5. 上記において、既設管の位置及び埋設深さが異なる場合、地山状況及び湧水等により掘削施工が困難と判断出来る場合には、監督職員に報告し協議を行うこと。
6. 送電柱・北電柱・共架電柱等の近接工事時(バックホウ旋回時等)には、頭上架線及び電柱等に注意して施工を行うこと。

令和5年度  
送水管路 移設工事終点  
EP=302.73 (SP=266.26)

終点接続工(別図参照)  
SP=302.73 DCIPφ600×600

空気弁工(終点接続工に含む)  
SP=302.73 DCIPφ600×75

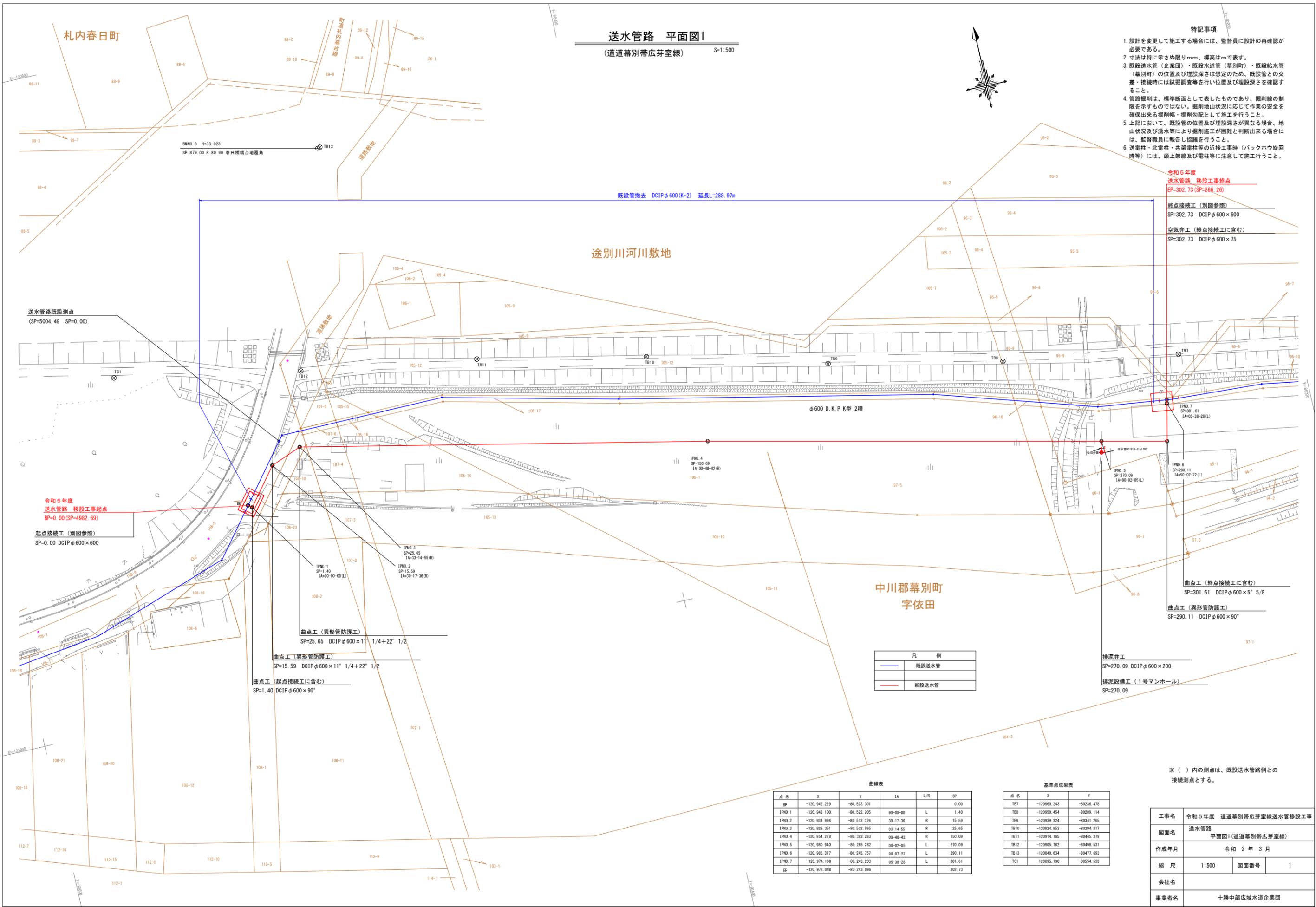
曲点工(終点接続工に含む)  
SP=301.61 DCIPφ600×5° 5/8

曲点工(異形管防護工)  
SP=290.11 DCIPφ600×90°

排泥弁工  
SP=270.09 DCIPφ600×200

排泥設備工(1号マンホール)  
SP=270.09

※( )内の測点は、既設送水管路側の接続測点とする。



凡 例	
<span style="color: blue;">—</span>	既設送水管
<span style="color: red;">—</span>	新設送水管

曲線表

点名	X	Y	IA	L/R	SP
BP	-120,942.229	-80,523.301			0.00
IPNO. 1	-120,943.100	-80,522.205	90-00-00	L	1.40
IPNO. 2	-120,931.994	-80,513.376	30-17-36	R	15.59
IPNO. 3	-120,928.351	-80,503.995	33-14-55	R	25.65
IPNO. 4	-120,954.278	-80,382.283	00-48-42	R	150.09
IPNO. 5	-120,980.940	-80,265.282	00-02-05	L	270.09
IPNO. 6	-120,985.377	-80,245.757	90-07-22	L	290.11
IPNO. 7	-120,974.160	-80,243.233	05-38-28	L	301.61
EP	-120,973.048	-80,243.096			302.73

基準点成果表

点名	X	Y
TB7	-120960.243	-80236.478
TB8	-120950.454	-80289.114
TB9	-120939.324	-80341.265
TB10	-120924.953	-80394.817
TB11	-120914.165	-80445.379
TB12	-120905.762	-80498.531
TB13	-120840.634	-80477.693
TC1	-120895.198	-80554.533

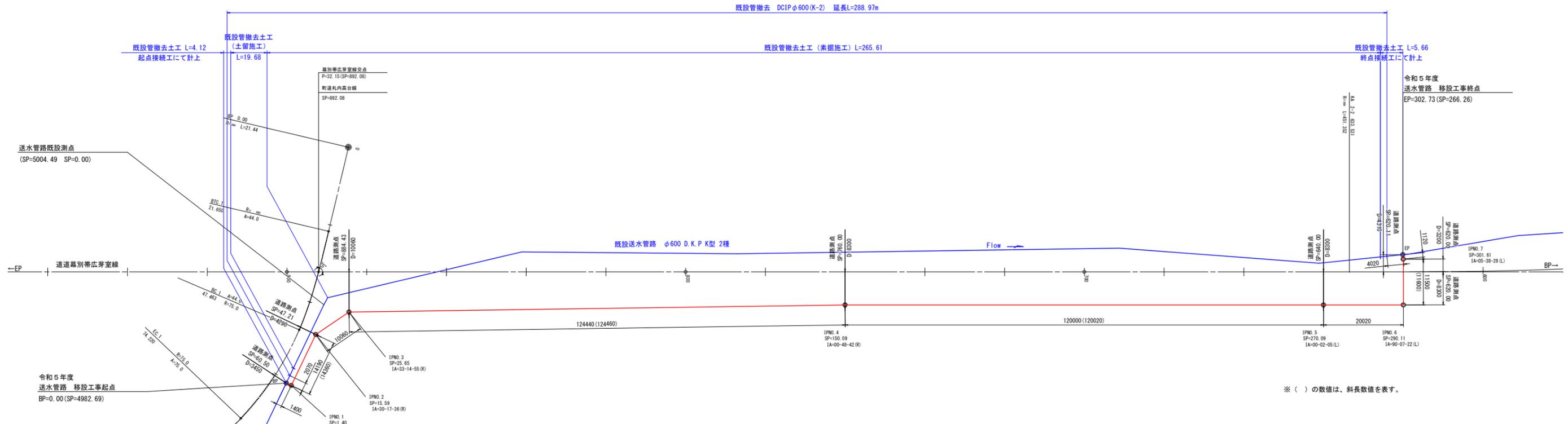
工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事
図面名	送水管路 平面図1(道道幕別帯広芽室線)
作成年月	令和 2 年 3 月
縮 尺	1:500
図面番号	1
会社名	
事業者名	十勝中部広域水道企業団

# 送水管路 路線位置図

NON SCALE

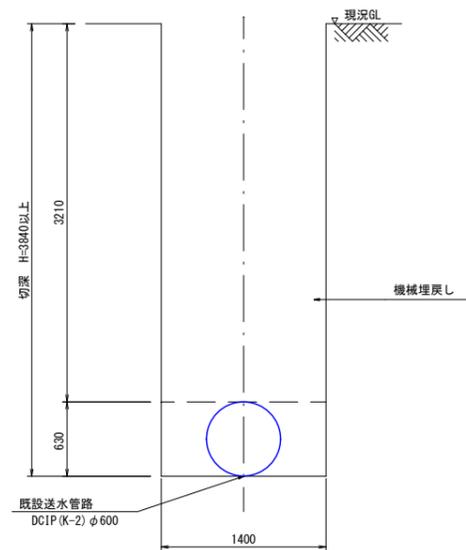
## 特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

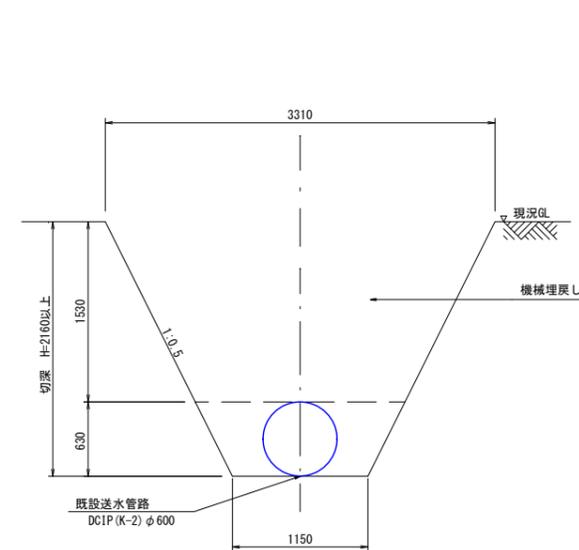


※ ( ) の数値は、斜長数値を表す。

既設送水管路  
撤去掘削断面図  
(土留施工)  
L=19.68



既設送水管路  
撤去掘削断面図  
(素掘施工)  
L=265.61



※ ( ) 内の測点は、既設送水管路側の接続測点とする。

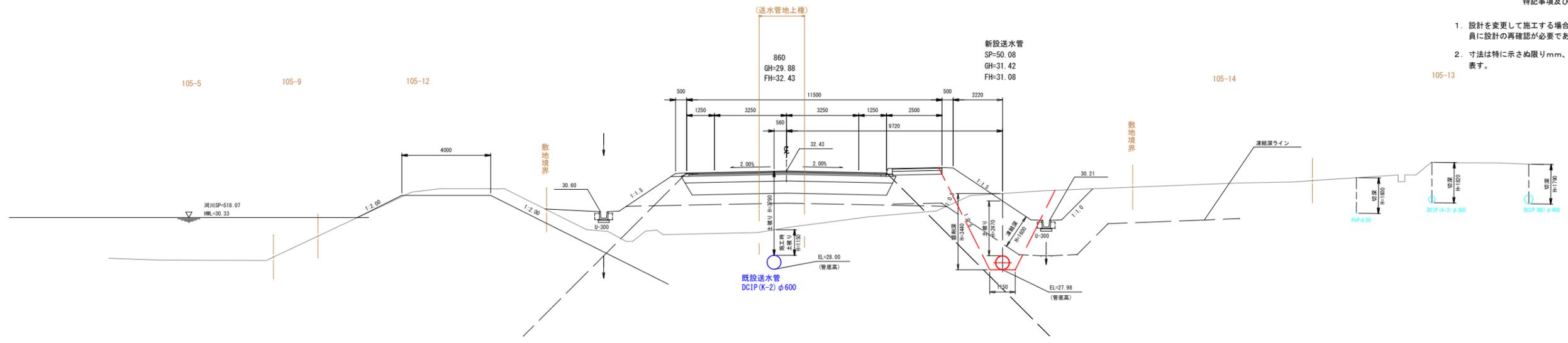
工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管路移設工事		
図面名	送水管路 路線位置図		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	図示	図面番号	2
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		



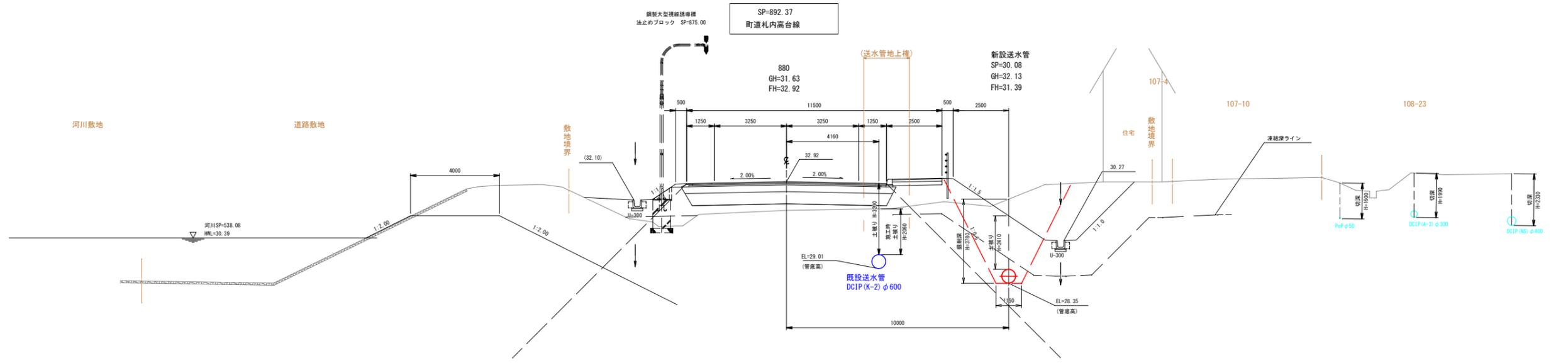


特記事項及び凡例

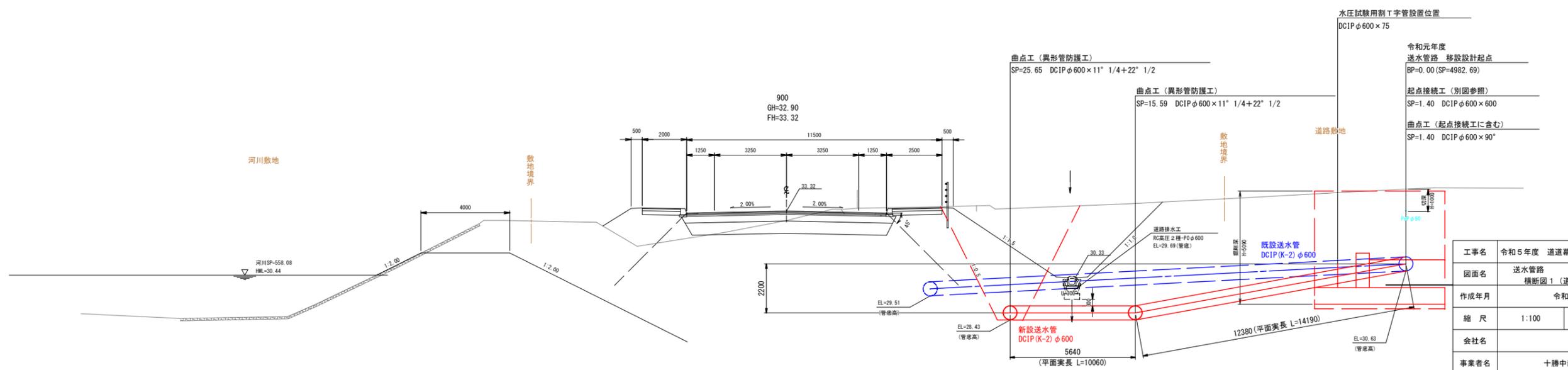
1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。



DL=25.0



DL=25.0



DL=30.0

水圧試験用割工字管設置位置

DCIP φ600 × 75

令和元年度  
送水管路 移設設計起点  
BP=0.00 (SP=4982.69)  
起点接続工 (別図参照)  
SP=1.40 DCIP φ600 × 600  
曲点工 (起点接続工に含む)  
SP=1.40 DCIP φ600 × 90°

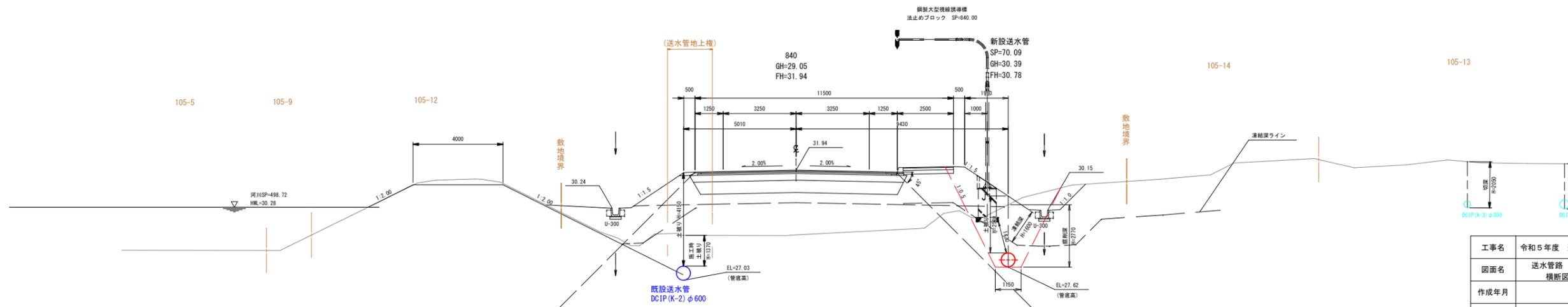
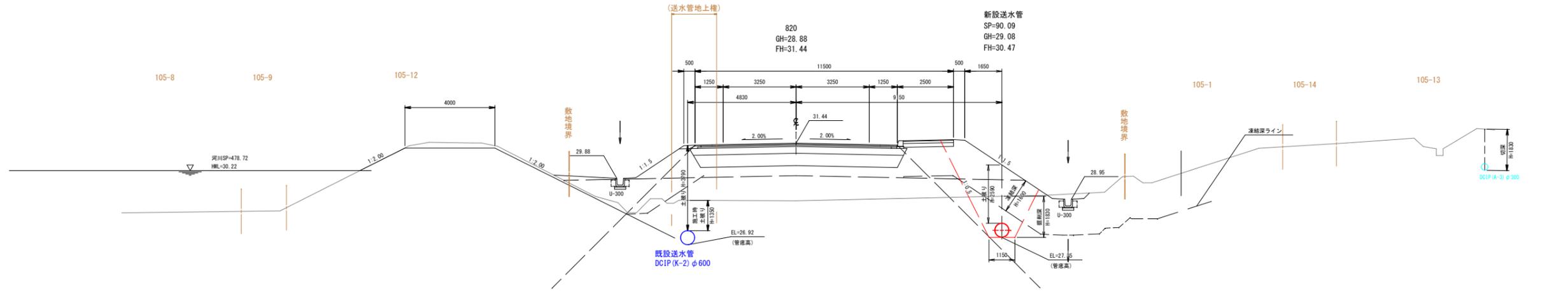
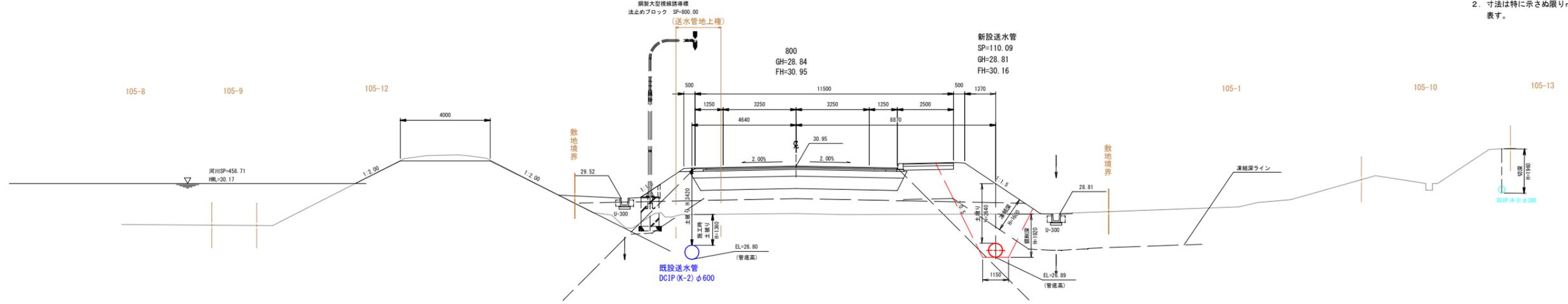
曲点工 (異形管防護工)  
SP=25.65 DCIP φ600 × 11° 1/4 + 22° 1/2

曲点工 (異形管防護工)  
SP=15.59 DCIP φ600 × 11° 1/4 + 22° 1/2

工事名	令和元年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 根断面1 (道道幕別帯広芽室線)		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	1:100	図面番号	5
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

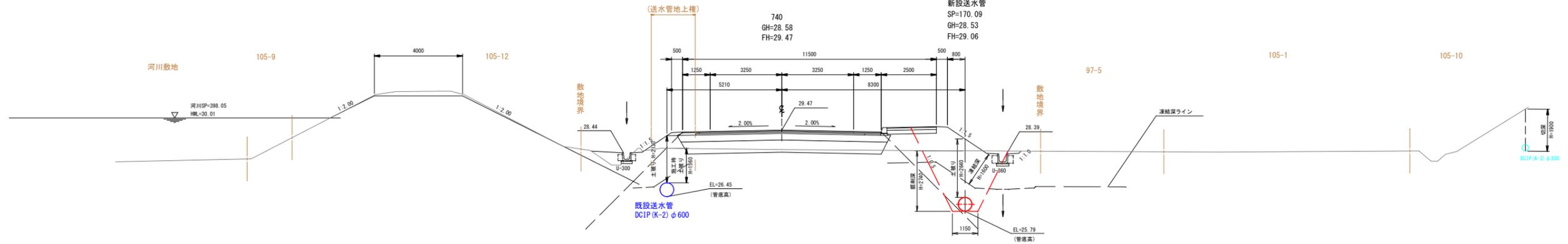


工事名	令和5年度 道道界別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 横断面2 (道道界別帯広芽室線)		
作成年月	令和2年3月		
縮尺	1:100	図面番号	6
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

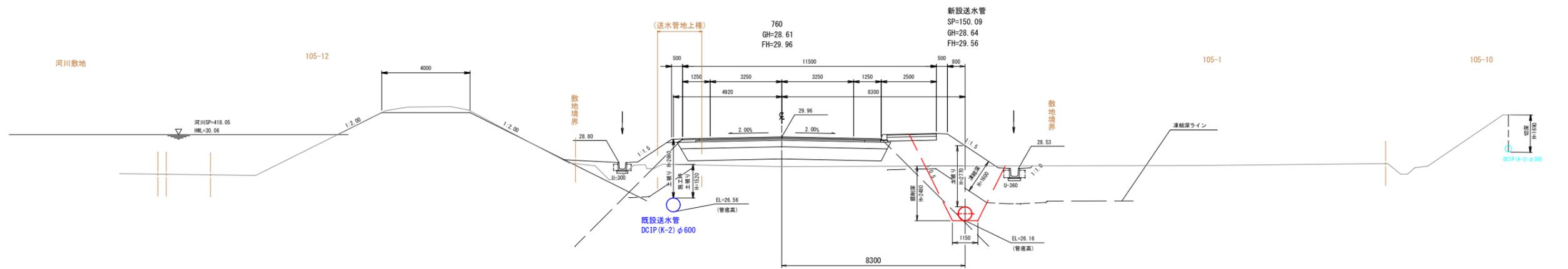
特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

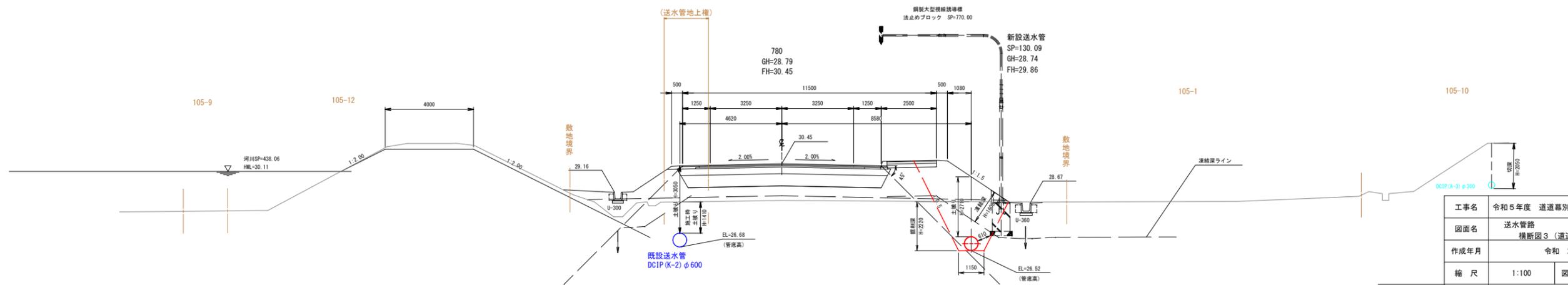
DL=25.0



DL=25.0



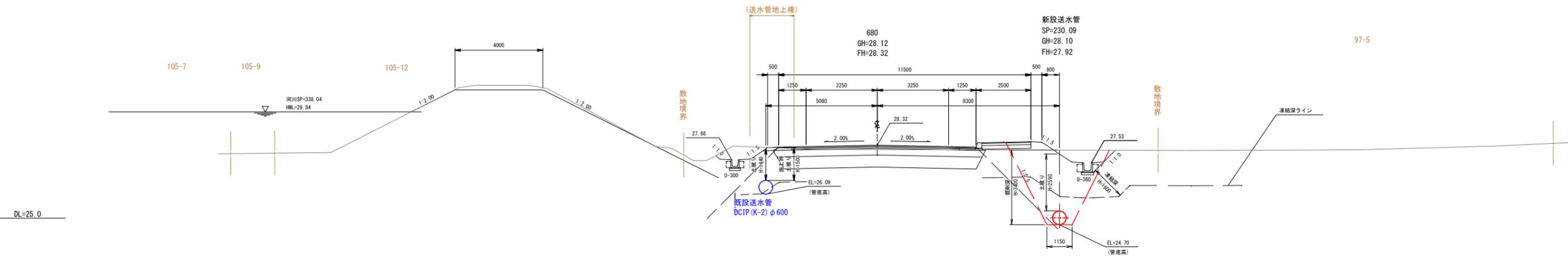
DL=25.0



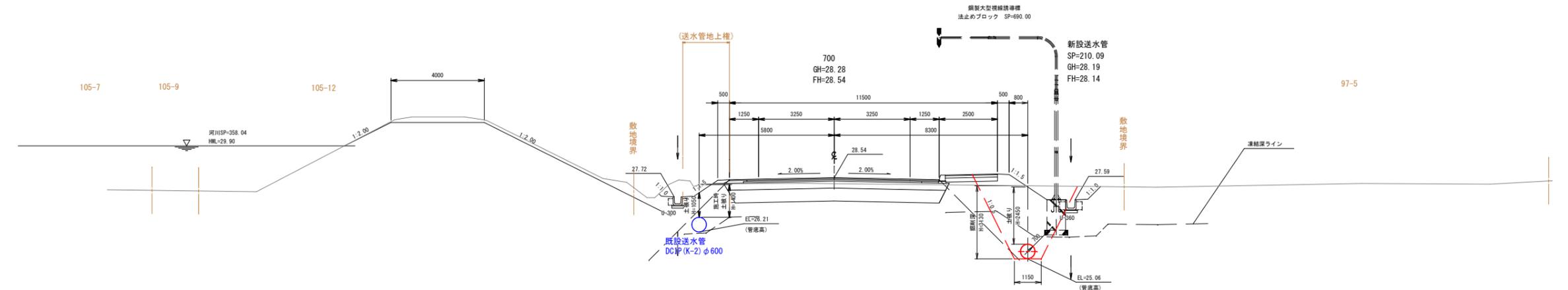
工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 横断面③ (道道幕別帯広芽室線)		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	1:100	図面番号	7
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

特記事項及び凡例

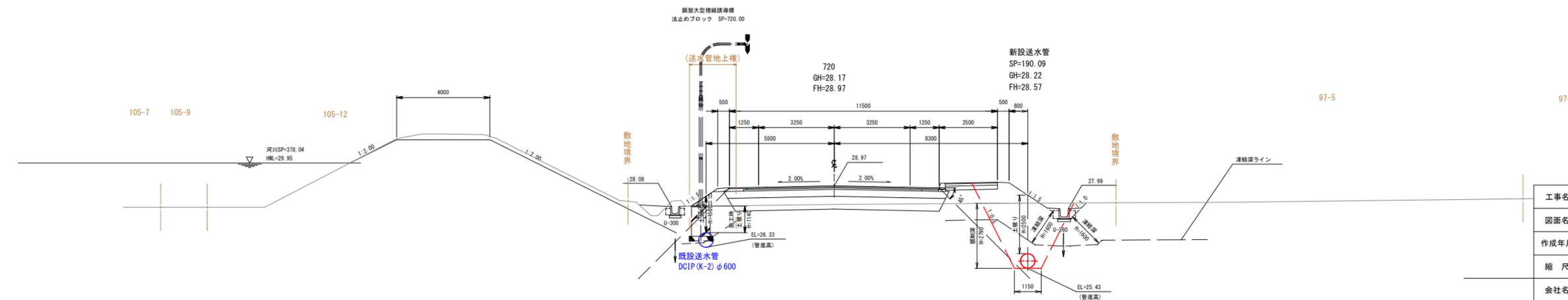
1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。



DL=25.0



DL=25.0

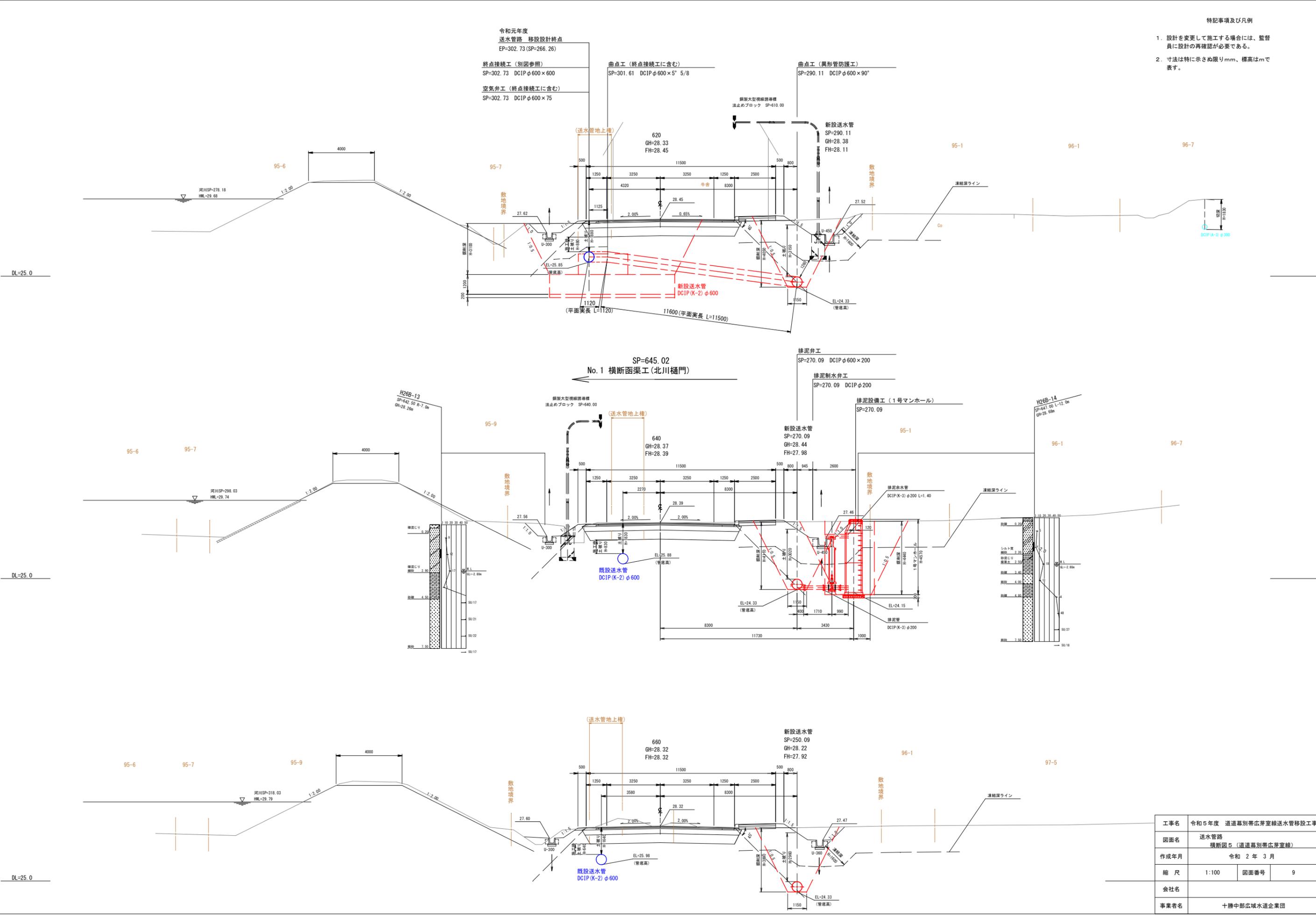


DL=25.0

工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 横断面4 (道道幕別帯広芽室線)		
作成年月	令和2年3月		
縮尺	1:100	図面番号	8
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。



工事名	令和5年度 道道幕別帯広穿窬線送水管移設工事		
図面名	送水管路 横断図5 (道道幕別帯広穿窬線)		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	1:100	図面番号	9
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

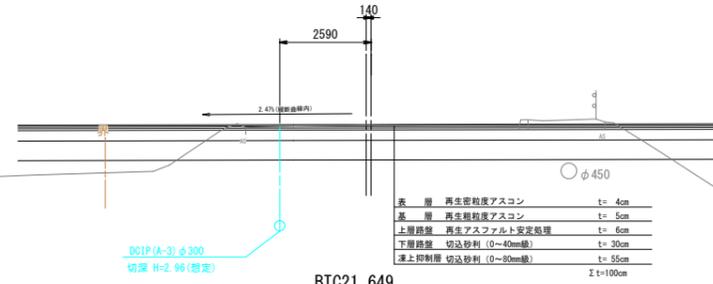
DL=30.00

DL=30.00

32.15

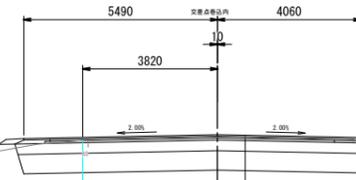
GH=33.18  
FH=33.19

道道幕別帯広芽室線



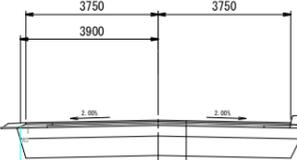
BTC21.649

GH=32.90  
FH=32.97



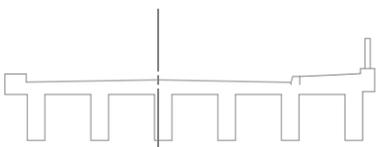
20

GH=32.84  
FH=32.94



0.00

GH=32.79



DL=30.00

DL=30.00

DL=30.00

DL=30.00

DL=30.00

DL=30.00

工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 横断面7 (町道札内高台線)		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	1:100	図面番号	10
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		







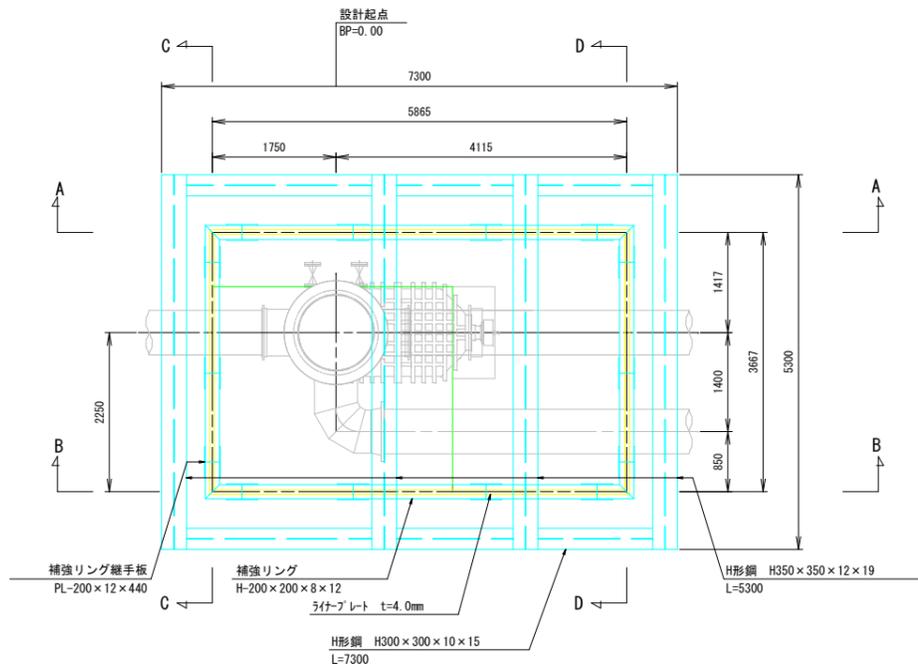
送水管路  
起点接続工 仮設立坑詳細図-1  
(ライナープレート)

セクション構成図

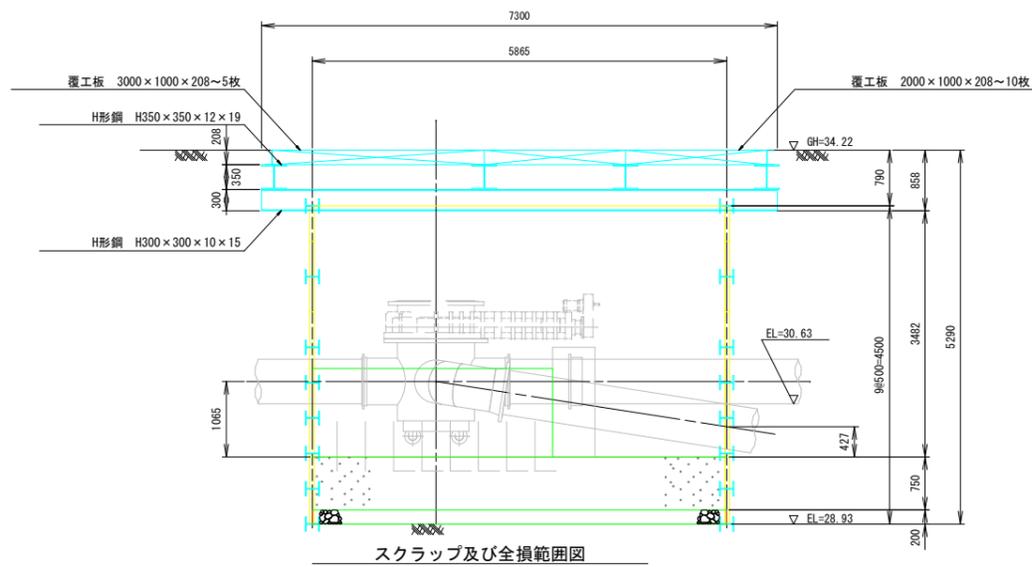
特記事項

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

平面図

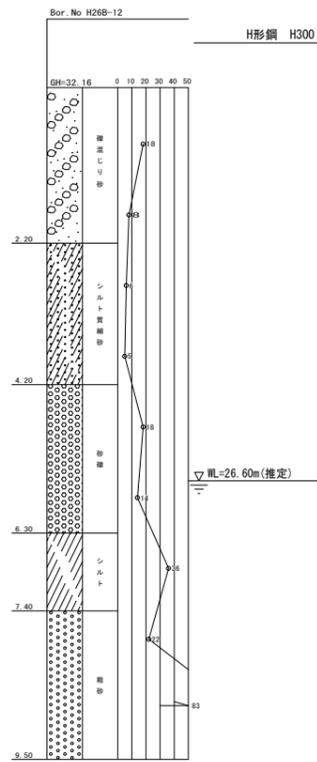
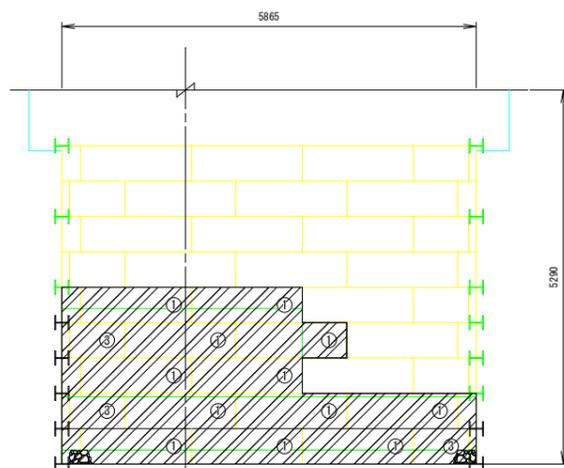
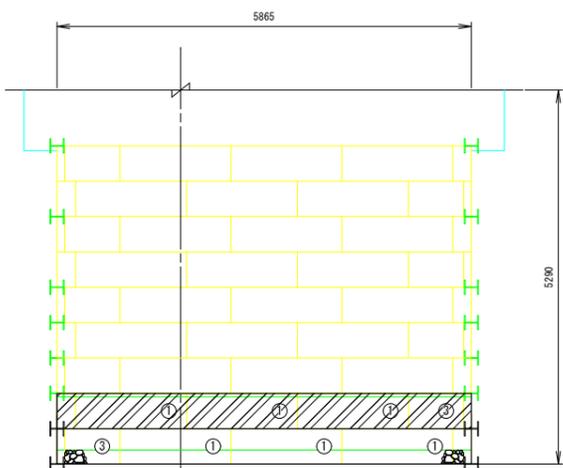


側面図

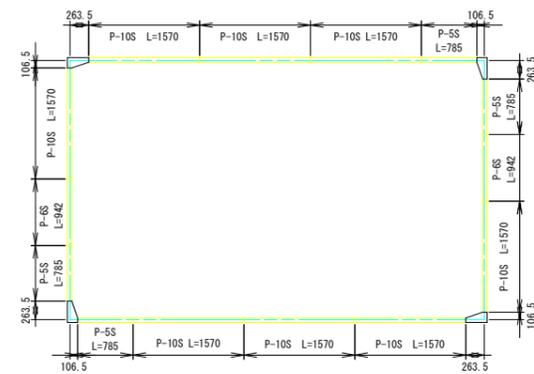


A-A断面図

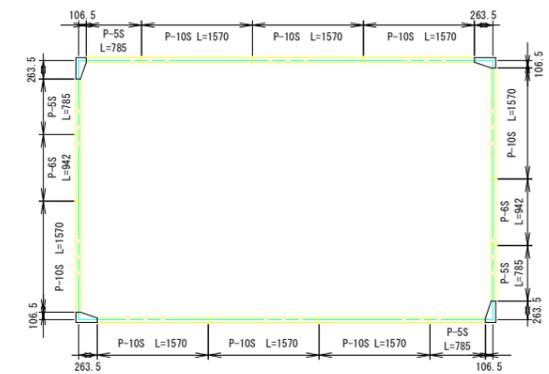
B-B断面図



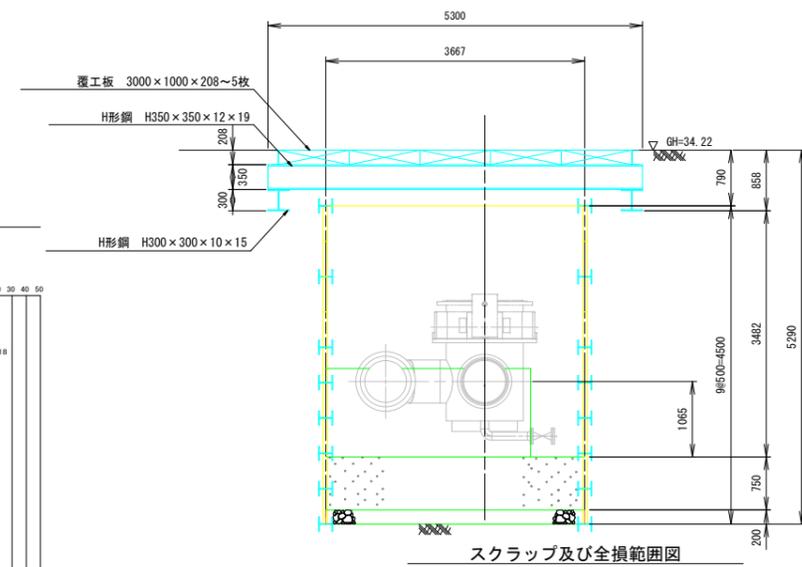
Aタイプ



Bタイプ

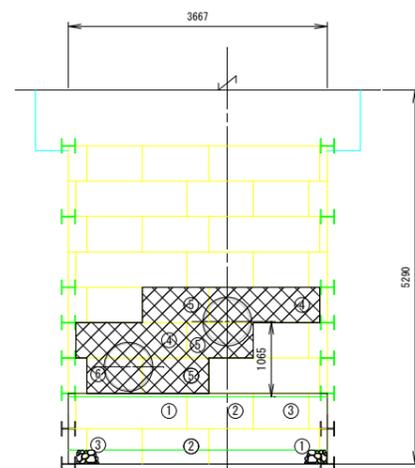
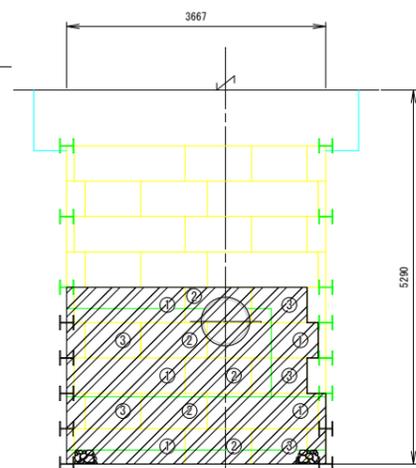


正面図

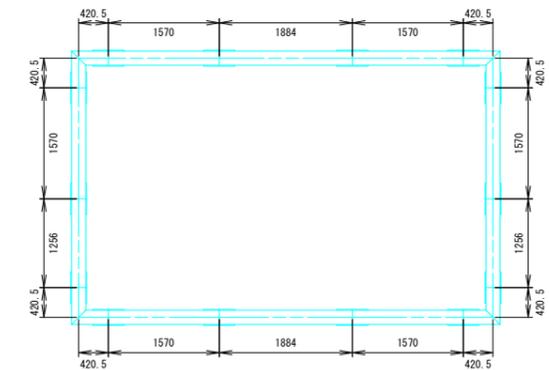


C-C断面図

D-D断面図



補強リング構成図



ライナープレート開口部

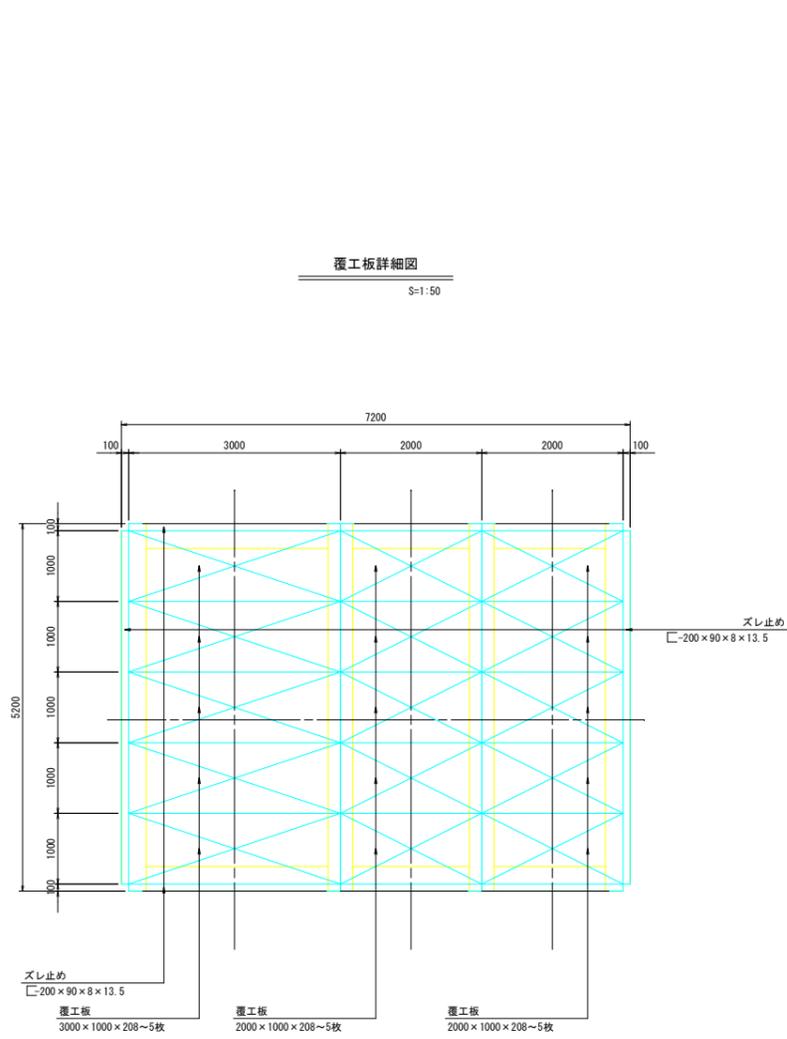
No.	使用形態	板厚	ライナープレートセクション
①	全損	2.7	P-10 25枚
②	全損	2.7	P-6 7枚
③	全損	2.7	P-5 12枚
④	スクラップ	2.7	P-10 2枚
⑤	スクラップ	2.7	P-6 3枚
⑥	スクラップ	2.7	P-5 1枚

工事名	令和5年度 道道専別帯広芽室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 起点接続工 仮設立坑詳細図-1		
作成年月	令和 2年 3月	縮尺	1:50
縮尺	1:50	図面番号	14
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

送水管路  
起点接続工 仮設立坑詳細図-2

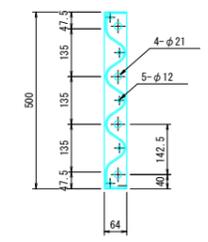
特記事項

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

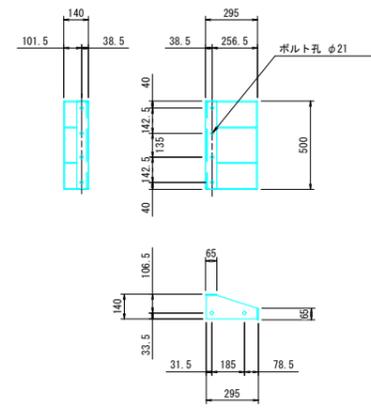


ライナープレート詳細図

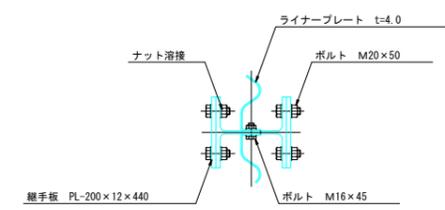
継手部詳細図 (矢視)  
S=1:10



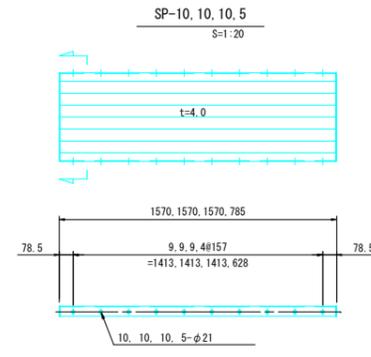
ライナープレート詳細図  
(コーナー用) S=1:20



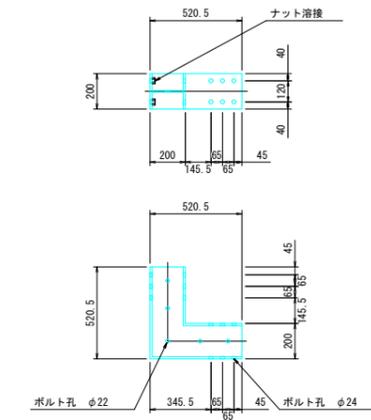
補強リング継手部詳細図  
S=1:10



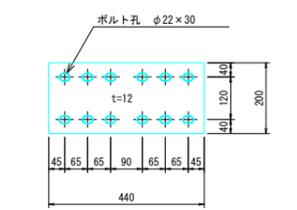
ライナープレート詳細図



補強リング詳細図  
S=1:20



補強リング継手部詳細図  
S=1:10



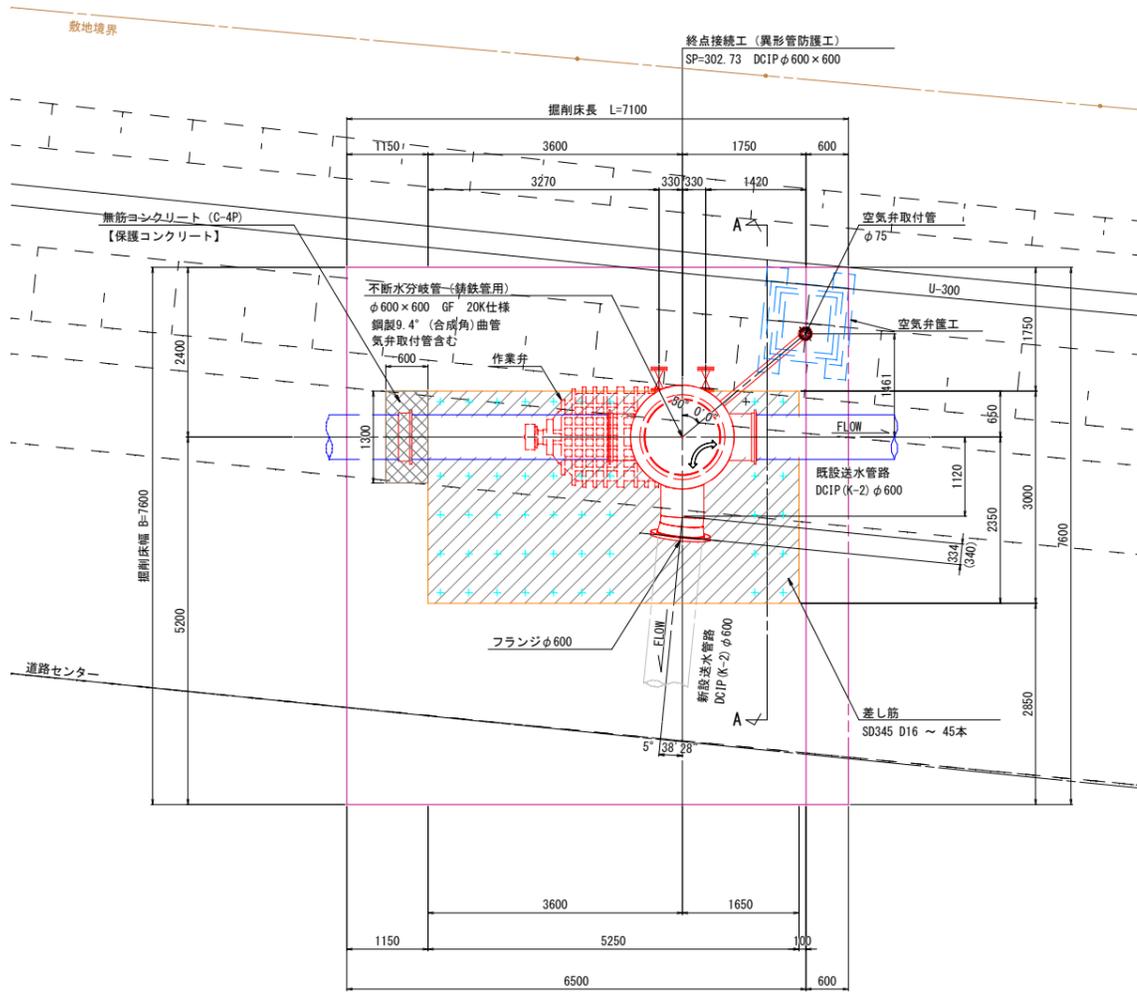
工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事
図面名	送水管路 起点接続工 仮設立坑詳細図-2
作成年月	令和2年3月
縮尺	図示 図面番号 15
会社名	
事業者名	十勝中部広域水道企業団

送水管路  
終点接続工詳細図 (参考図)

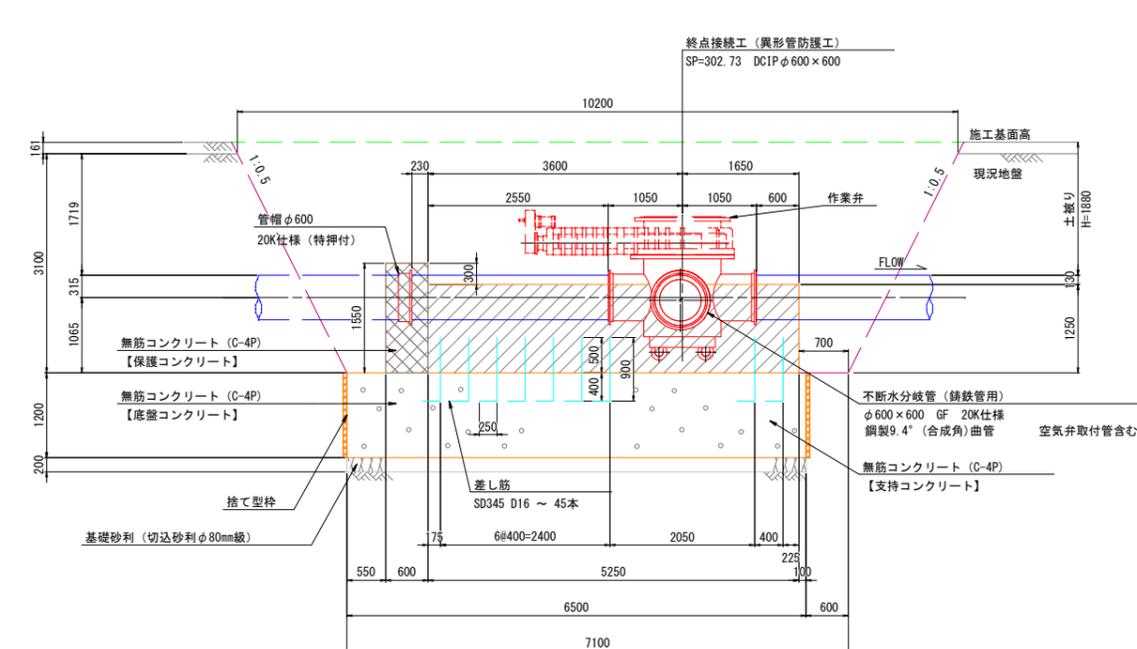
特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合は、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。
3. 不断水分岐管設置後に支持コンクリートを打設する。
4. 防護については、土質等条件が異なるので、掘削完了後に防護計算を再照査すること。
5. 不断水分岐管側の、作業用仕切弁は撤去しないこと。  
また、埋戻し作業前にはフランジ蓋設置後、閉止状態を確認したのち埋戻し作業を行うこと。
6. 既設送水管（企業団）の位置及び埋設深さは想定のため、接続時には試掘調査等を行い位置及び埋設深さを確認すること。
7. 既設送水管（上流側）の受け口が掘削内に現れた場合、抜け出し防止のためにK形特殊掘削輪を、監督員の承諾のもと設置すること。
8. 接続工掘削は、標準断面として表したものであり、掘削線の制限を示すものではない。掘削地山状況に応じて作業の安全を確保出来る掘削幅・掘削勾配として施工を行うこと。
9. 上記において、既設管の位置及び埋設深さが異なる場合、地山状況及び湧水等により掘削工が困難と判断出来る場合には、監督職員に報告し協議を行うこと。

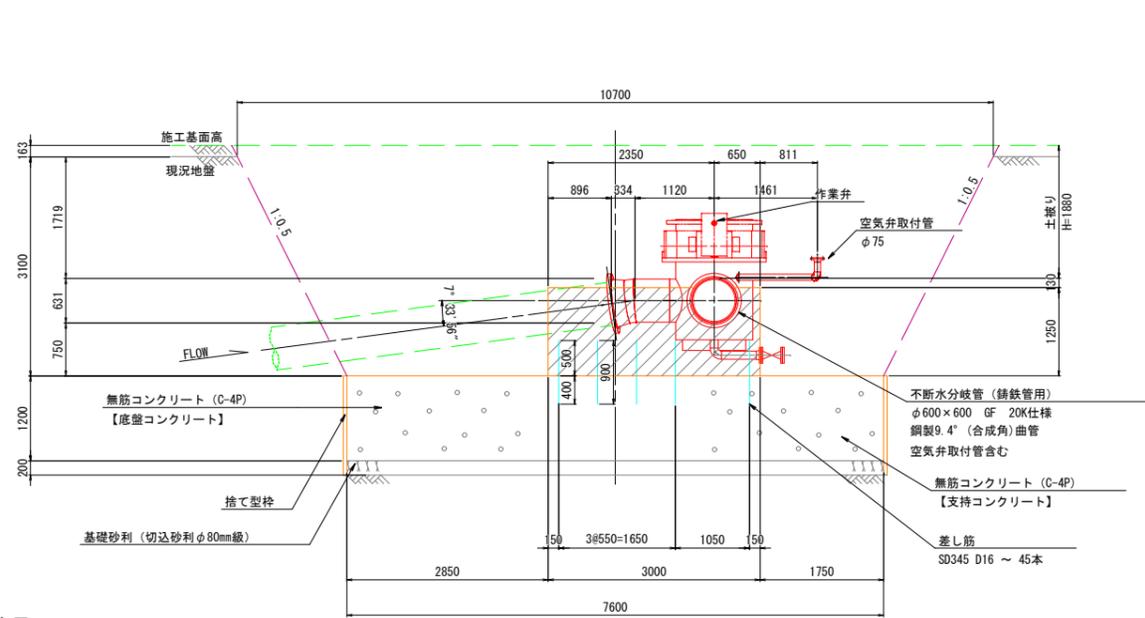
平面図  
S=1:50



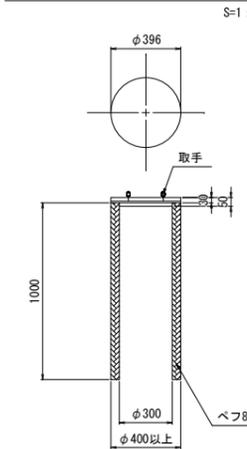
断面図  
S=1:50



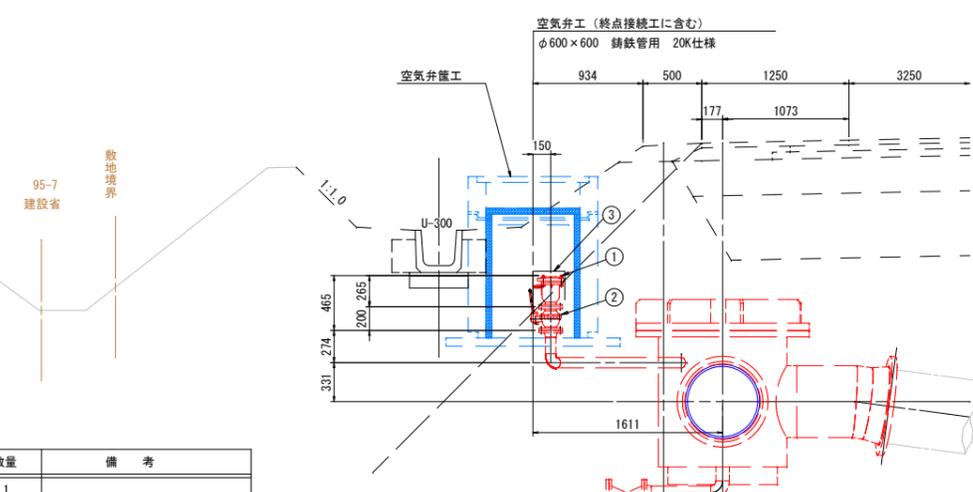
A-A断面図  
S=1:50



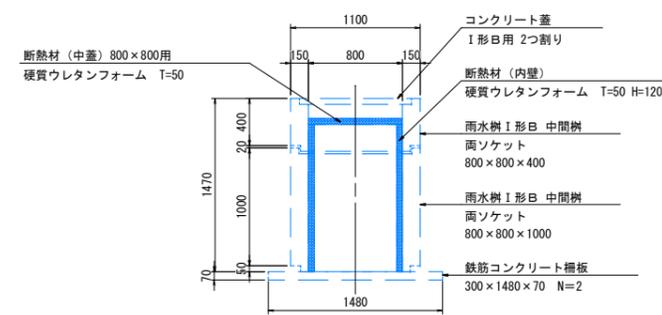
空気弁用  
保温カバー詳細図 (参考図)  
S=1:20



空気弁工詳細図  
NON SCALE



空気弁工詳細図  
NON SCALE



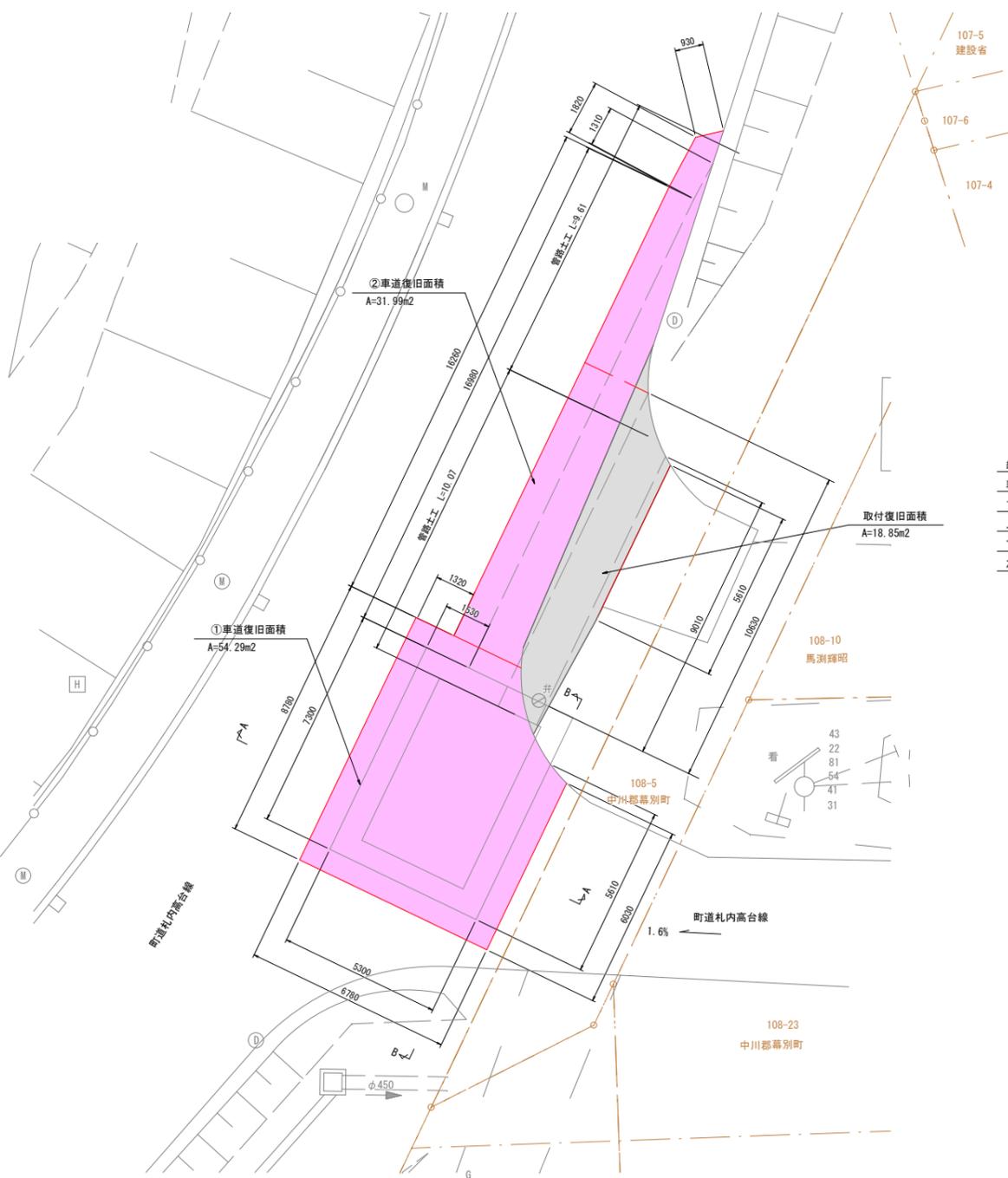
空気弁工資材一覧表

番号	名称	規格・形状	単位	数量	備考
①	急速空気弁	φ75 乙型 GF 20K仕様	基	1	
②	水道補修弁	φ75×H=200 GF 20K仕様	基	1	レバー式
③	空気弁用保温カバー	内径φ300 H=1.00m t=50mm以上	ヶ	1	取手付き
	フランジ接合材 (GF)	φ75 20K仕様 SUS304	組	2	

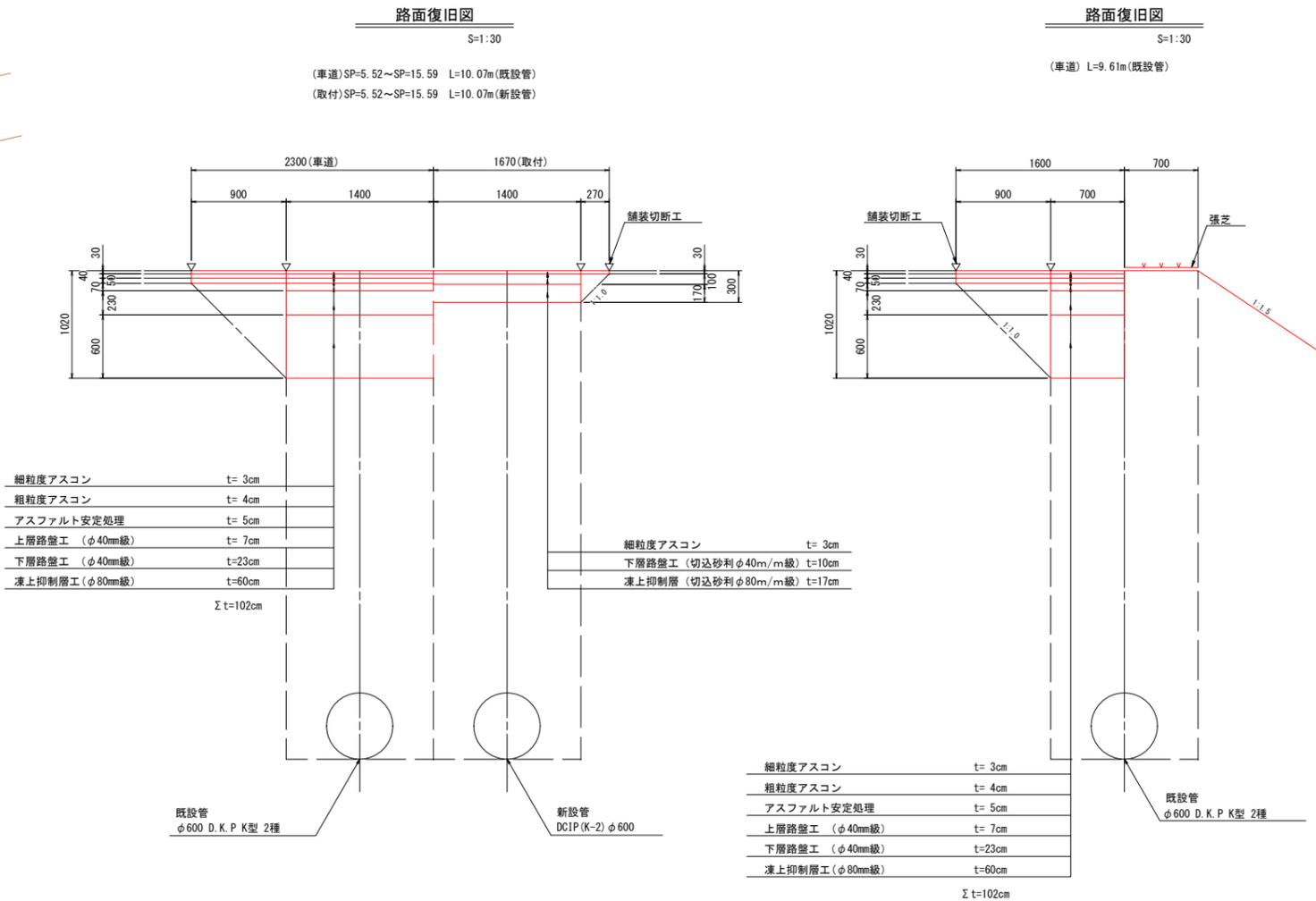
- ※1. 不断水分岐管には、付属資材として水道用ソフトシール仕切弁2基フランジ蓋2個フランジ接合材 (GF) 4組含む。
- ※2. 付属資材は、全て20K仕様とする。
- ※3. 新設配管は、完全一体化で配管すること。
- ※4. 管帽は、新設送水管で行う水圧試験で、使用した資材を流用すること。

工事名	令和5年度 道道幕別帯広芽室線送水管移設工事
図面名	送水管路 終点接続工詳細図
作成年月	令和2年3月
縮尺	図示 図面番号 16
会社名	
事業者名	十勝中部広域水道企業団

平面図  
S=1:100



送水管路  
路面復旧図-1  
S=1:100



特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。
3. 図面に記載している復旧定規と現地路盤構成に相違が生じた場合は、原形復旧が基本となるため監督員と協議を行うこと。

工事名	令和5年度 道道幕別帯広穿室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 路面復旧図-1		
作成年月	令和 2 年 3 月		
縮尺	1:100	図面番号	17
会社名			
事業者名	十勝中郡広域水道企業団		

路面復旧図-2

S=1:100

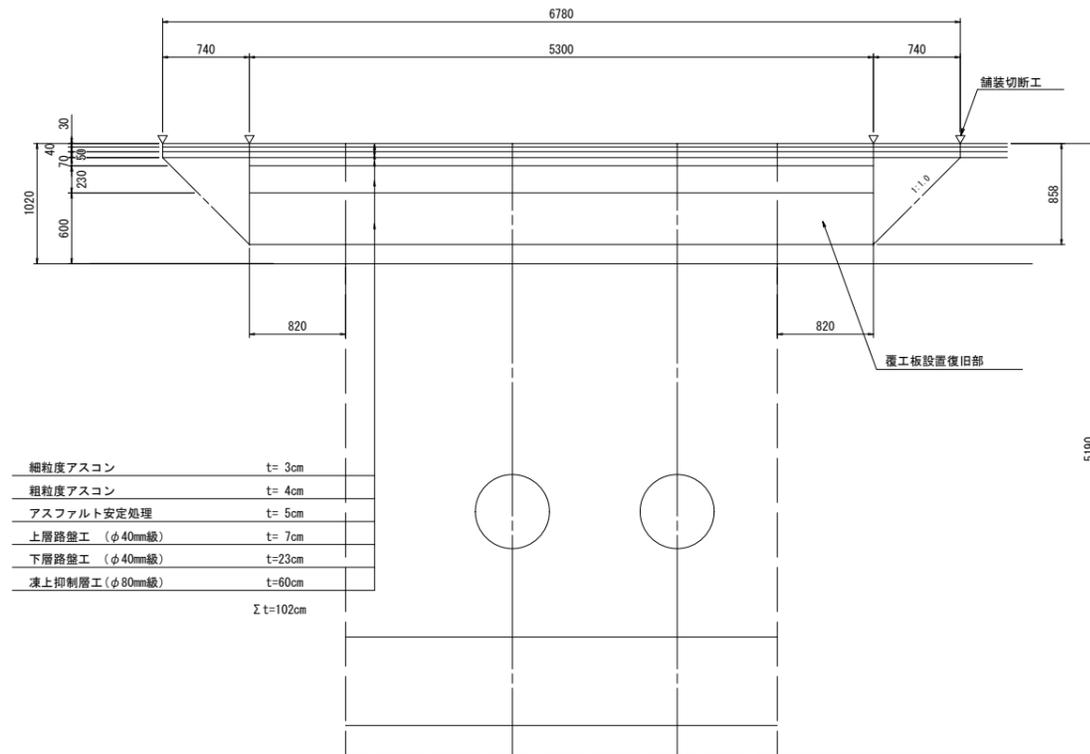
特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。
3. 図面に記載している復旧定規と現地路盤構成に相違が生じた場合は、原形復旧が基本となるため監督員と協議を行うこと。

A-A  
路面復旧図

S=1:30

起点部(ライナープレート)

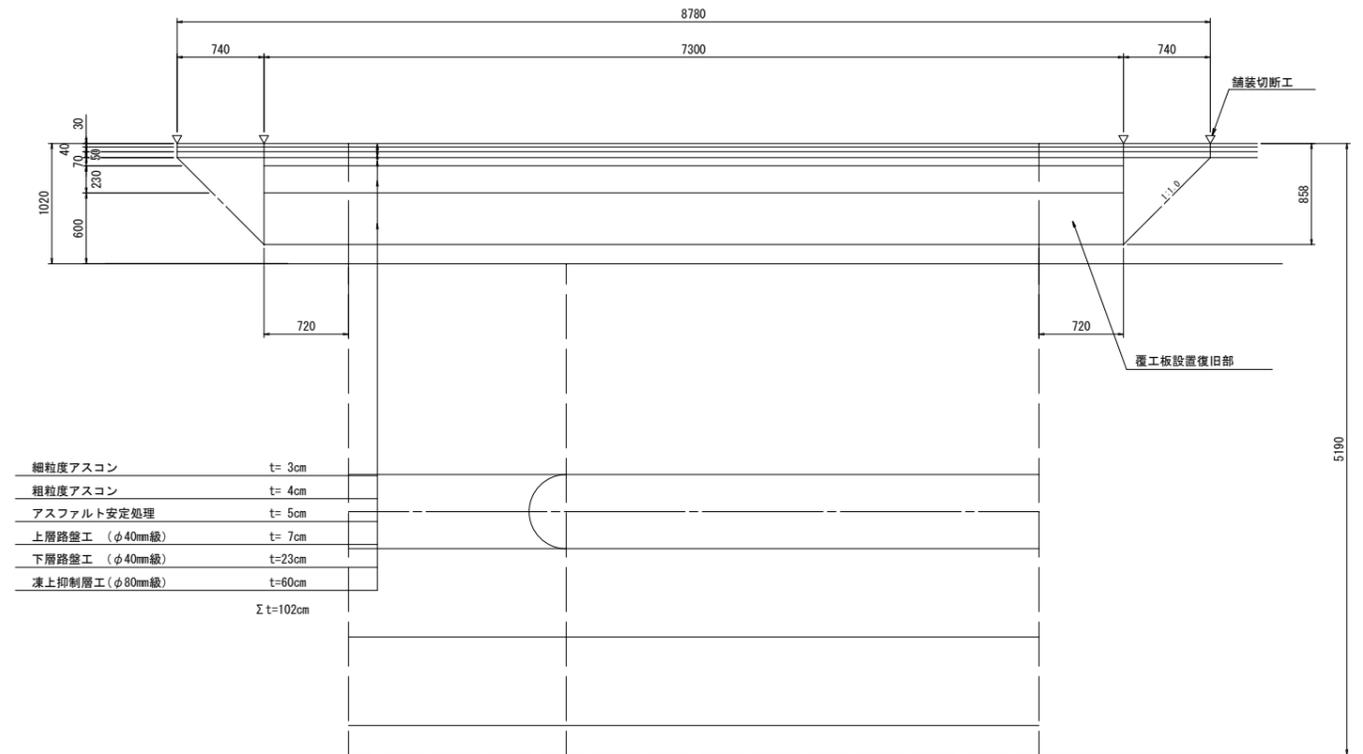


細粒度アスコン	t= 3cm
粗粒度アスコン	t= 4cm
アスファルト安定処理	t= 5cm
上層路盤工 (φ40mm級)	t= 7cm
下層路盤工 (φ40mm級)	t=23cm
凍上抑制層工(φ80mm級)	t=60cm
Σ t=102cm	

B-B  
路面復旧図

S=1:30

起点部(ライナープレート)



細粒度アスコン	t= 3cm
粗粒度アスコン	t= 4cm
アスファルト安定処理	t= 5cm
上層路盤工 (φ40mm級)	t= 7cm
下層路盤工 (φ40mm級)	t=23cm
凍上抑制層工(φ80mm級)	t=60cm
Σ t=102cm	

工事名	令和5年度 道道幕別帯広穿堂線送水管移設工事		
図面名	送水管路 路面復旧図-2		
作成年月	令和 2 年 3 月		
縮尺	1:100	図面番号	18
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

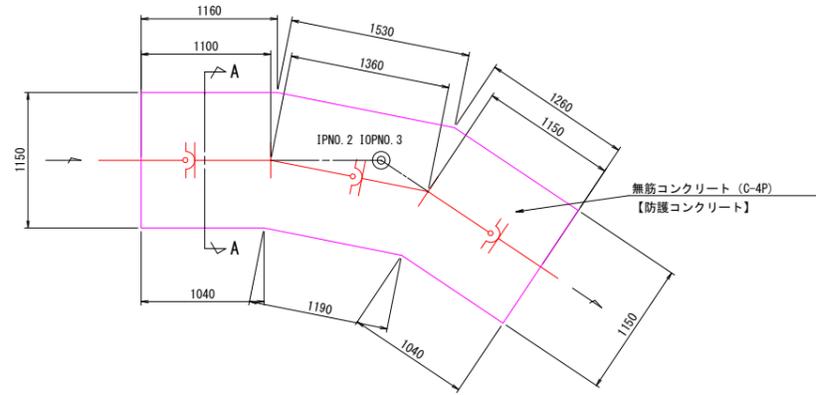
送水管路  
異形管防護工詳細図

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

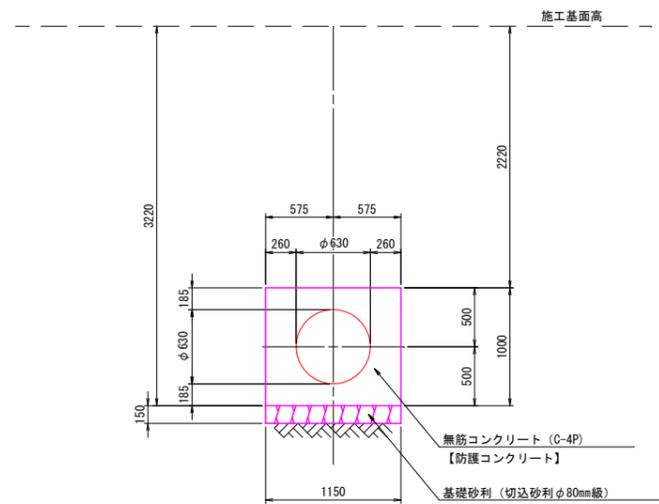
平面図  
S=1:30

(IPNO. 2 SP=15.59 11° 1/4+22° 1/2)  
(IPNO. 3 SP=25.65 11° 1/4+22° 1/2)



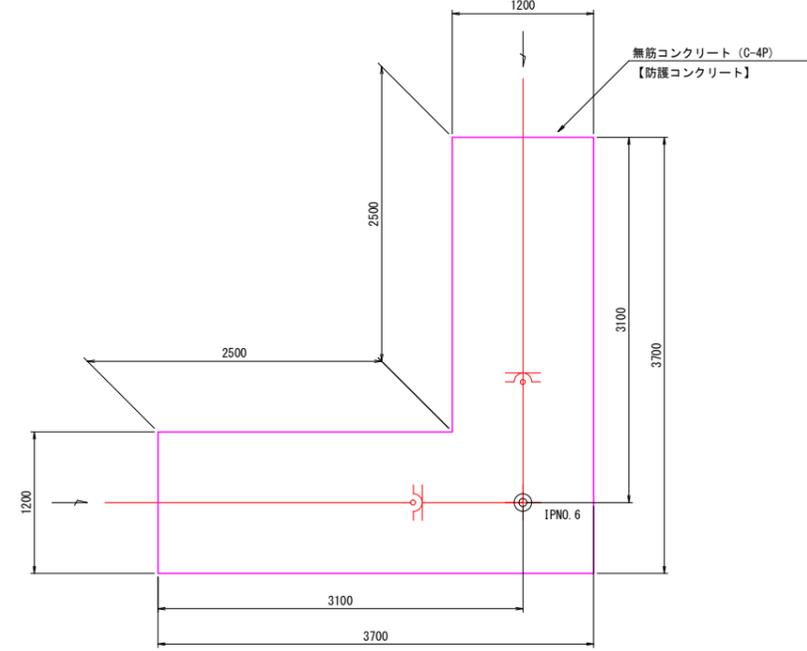
※ 基礎砂利延長  $L = 1.10 + 1.36 + 1.15 = 3.61$  m

A-A断面図  
S=1:30



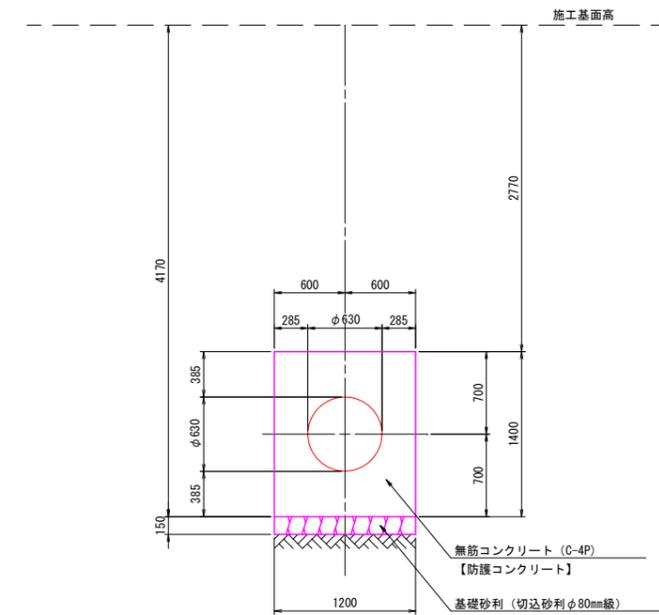
平面図  
S=1:30

(IPNO. 6 SP=290.11 90°)



※ 基礎砂利延長  $L = 3.10 + 3.10 = 6.20$  m

A-A断面図  
S=1:30

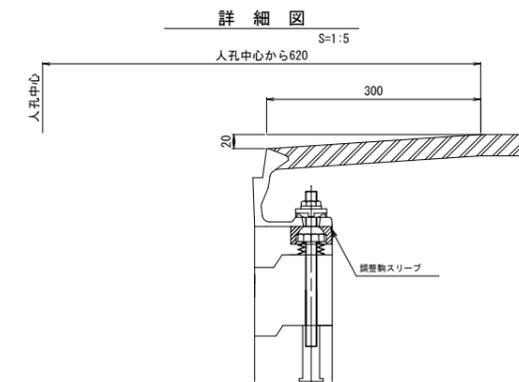
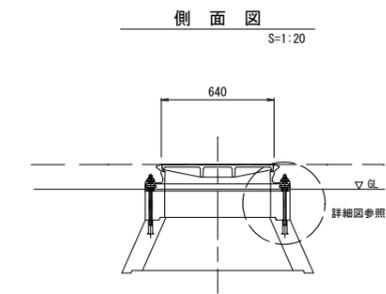
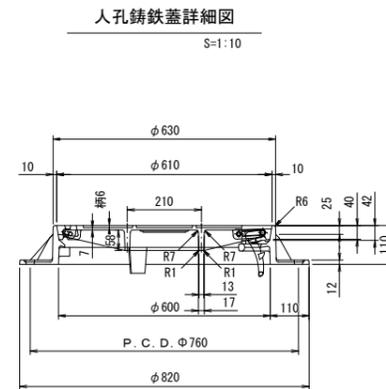
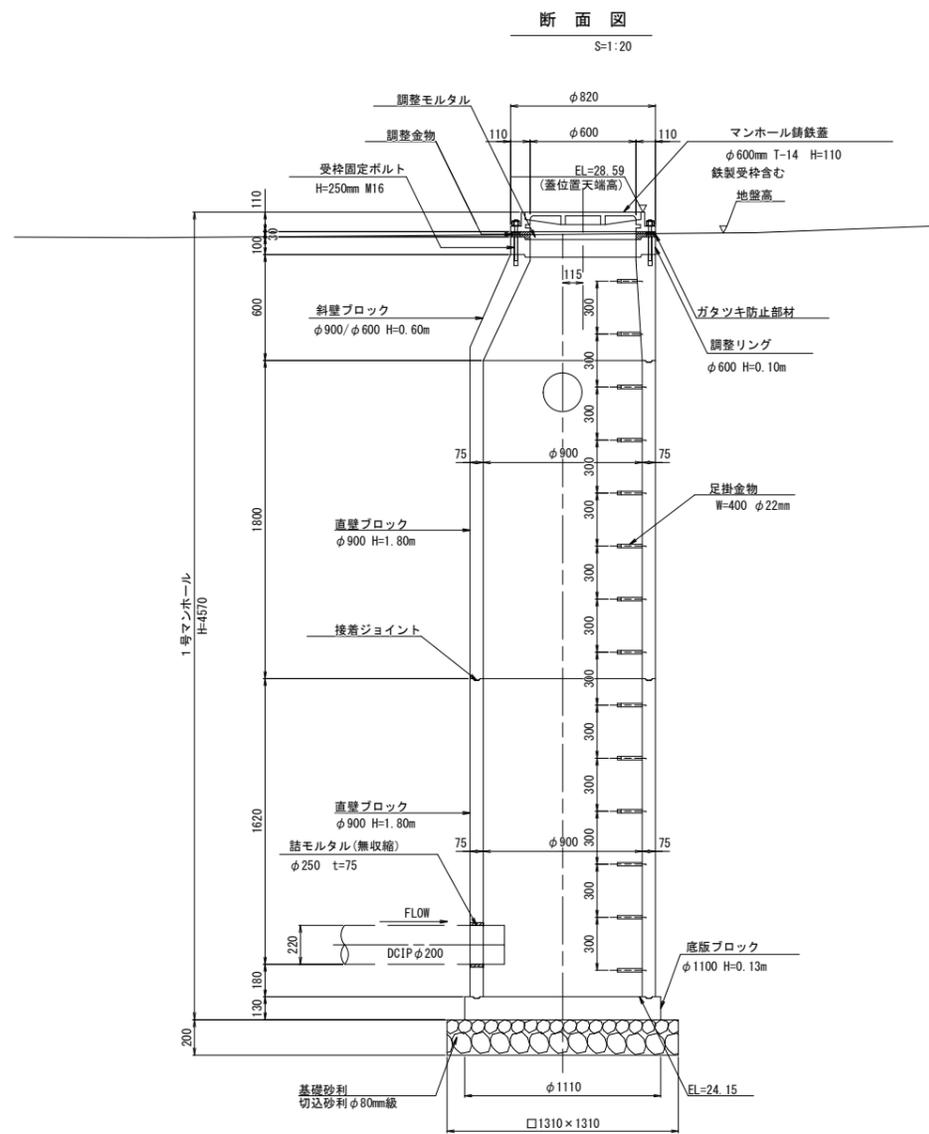
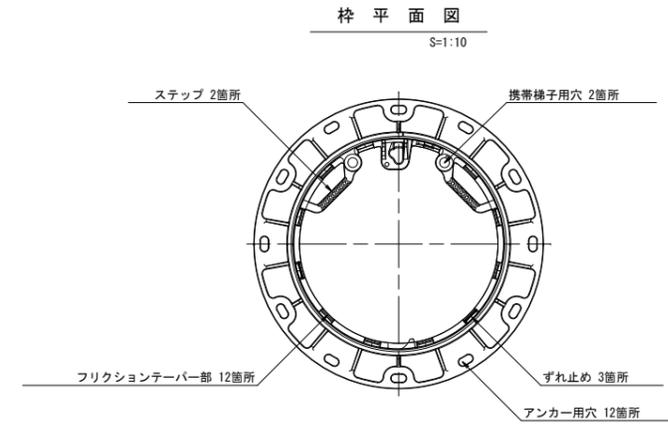
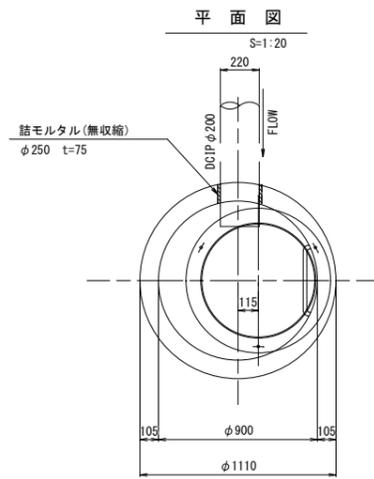


工事名	令和5年度 道道幕別帯広身室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 異形管防護詳細図		
作成年月	令和 2 年 3 月		
縮尺	図示	図面番号	19
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

送水管路  
排泥設備工詳細図  
(1号マンホール)

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。



工事名	令和5年度 道道幕別帯広身室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 排泥設備工詳細図		
作成年月	令和2年3月		
縮尺	図示	図面番号	20
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

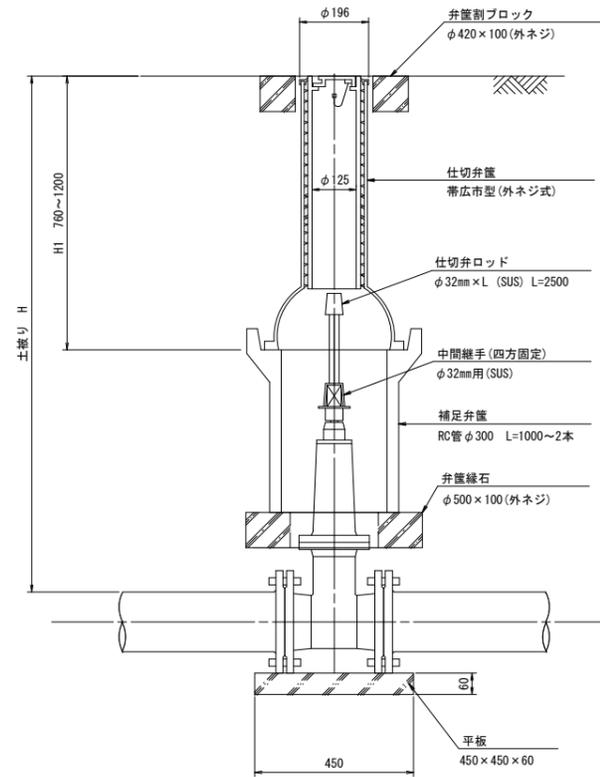
送水管路  
仕切弁工詳細図

S=1:10

特記事項及び凡例

1. 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
2. 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。

仕切弁工詳細図



名称	規格・形状	単位	数量	備考
(資材)				
仕切弁(上部・下部)	帯広市型 外ネジ式	基	1	
弁蓋割ブロック	φ420×100(外ネジ)	個	1	
弁蓋縁石	φ500×100(外ネジ)	個	1	
平板	450×450×60	枚	1	
補足弁蓋	RC管φ300 L=1.00	本	2	
仕切弁ロッド	φ32×L SUS L=0.50	本	1	(四方固定)
振止金具	φ32用 SUS	個	1	
防水キャップ	外ネジ式弁蓋	個	1	
標示プレート	亚克力板 30×70×3 鎮付	枚	1	

工事名	令和5年度 道道幕別帯広身室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 仕切弁工詳細図		
作成年月	令和2年3月		
縮尺	S=1:10	図面番号	21
会社名			
事業者名	十勝中部広域水道企業団		

送水管路 仮設計画図(参考図)

S=1:500

曲線表

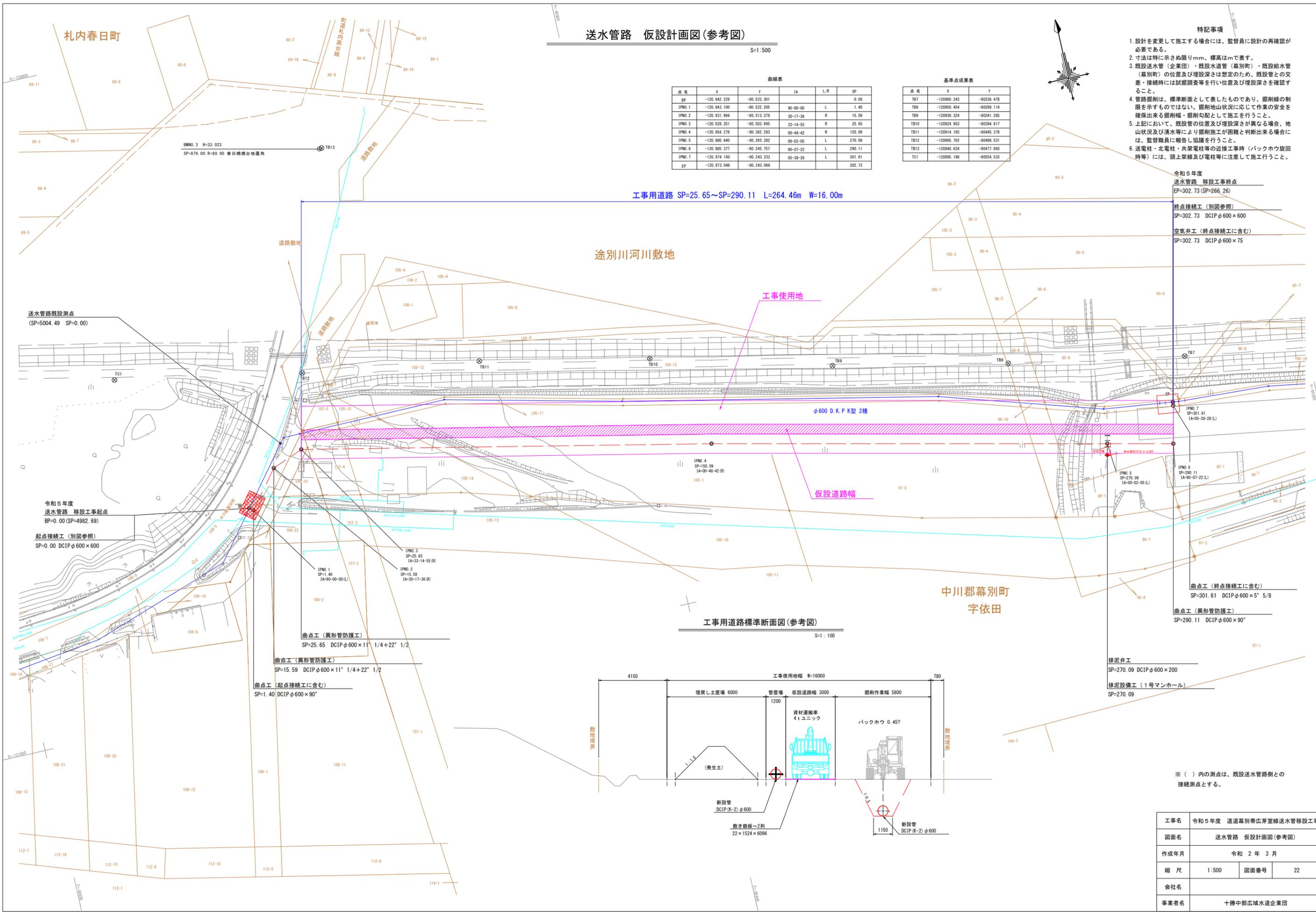
点名	X	Y	IA	L/R	SP
BP	-120,942.229	-80,523.201			0.00
IPNO.1	-120,943.100	-80,522.205	90-00-00	L	1.40
IPNO.2	-120,931.994	-80,513.376	30-17-36	R	15.59
IPNO.3	-120,928.351	-80,503.995	33-14-55	R	25.65
IPNO.4	-120,954.278	-80,382.283	00-48-42	R	150.09
IPNO.5	-120,980.940	-80,265.282	00-02-05	L	270.09
IPNO.6	-120,985.377	-80,245.757	90-07-22	L	290.11
IPNO.7	-120,974.160	-80,243.233	05-38-28	L	301.61
EP	-120,973.048	-80,243.096			302.73

基準点成果表

点名	X	Y
TB7	-120940.243	-80236.478
TB8	-120950.454	-80289.114
TB9	-120939.324	-80341.265
TB10	-120924.953	-80394.817
TB11	-120914.165	-80448.379
TB12	-120905.762	-80498.531
TB13	-120840.634	-80477.693
TC1	-120895.198	-80554.533



- 特記事項
- 設計を変更して施工する場合には、監督員に設計の再確認が必要である。
  - 寸法は特に示さぬ限りmm、標高はmで表す。
  - 既設送水管(企業団)・既設水道管(幕別町)・既設給水管(幕別町)の位置及び埋設深さは想定のため、既設管との交差・接続時には試掘調査を行い位置及び埋設深さを確認すること。
  - 管路掘削は、標準断面として表したものであり、掘削線の制限を示すものではない。掘削地山状況に応じて作業の安全を確保出来る掘削幅・掘削勾配として施工を行うこと。
  - 上記において、既設管の位置及び埋設深さが異なる場合、地山状況及び湧水等により掘削施工が困難と判断出来る場合には、監督職員に報告し協議を行うこと。
  - 送電柱・北電柱・共架電柱等の近接工事時(バックホウ旋回時等)には、頭上架線及び電柱等に注意して施工を行うこと。



工事用道路 SP=25.65~SP=290.11 L=264.46m W=16.00m

途別川河川敷地

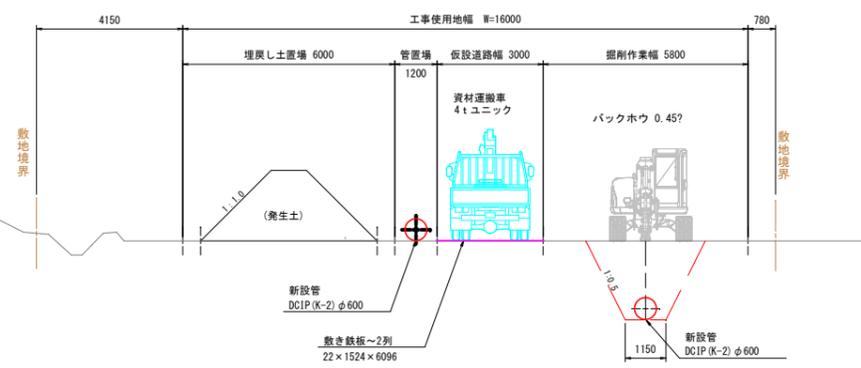
工事使用地

仮設道路幅

中川郡幕別町  
字 依田

工事用道路標準断面図(参考図)

S=1:100



令和5年度  
送水管路 移設工事終点  
EP=302.73(SP=266.26)

終点接続工(別図参照)  
SP=302.73 DCIPφ600×600

空気弁工(終点接続工に含む)  
SP=302.73 DCIPφ600×75

曲点工(終点接続工に含む)  
SP=301.61 DCIPφ600×5° 5/8

曲点工(異形管防護工)  
SP=290.11 DCIPφ600×90°

排泥弁工  
SP=270.09 DCIPφ600×200

排泥設備工(1号マンホール)  
SP=270.09

※( )内の測点は、既設送水管路側との  
接続測点とする。

工事名	令和5年度 道道幕別帯広茅室線送水管移設工事		
図面名	送水管路 仮設計画図(参考図)		
作成年月	令和 2年 3月		
縮尺	1:500	図面番号	22
会社名			
事業者名	十勝中広域水道企業団		